

きょうのテーマ

「書体」生み出し50年

優れたデザイン 探究続く

なるほど!



書体を手作業でデザインする様子を再現する中村さん。愛知県一宮市で



子どもの頃から絵を描くことが好きだった中村さん。三重県菟野町の中学校を卒業後、看板店や印刷会社で経験を積みました。その後、テレビ局で番組名や字幕といった画面に表示する文字の制作に携わります。文字の形のの違いでイメージが左右されること

1967年にフリーランスのデザイナーになり、転職が訪れます。偶然応募した書体コンテストで1位を獲得し、書体デザイナーの道が開かれました。当時は一つの書体につき、漢字や仮名、算用数字に記号などが必要で、4800の文字を手作業で作りました。

「ナール」と「ゴナ」が人気です。丸みを帯びて親しみやすいナールと、太い線が強く印象に残るゴナ。ナールは道路標識、ゴナは新

「書体」は文字の太さや線といったスタイルを統一してデザインします。書体デザイナーの中村征宏さん(84)は、50年以上にわたり書体と向き合っている。今も新作を生み出しています。書体の作り方や思いを聞きました。(岡本沙樹記者)



ナールが使われた標識=愛知県名古屋市で

見たことあるかな

日本でよく使われる書体にはどんなものがあるでしょうか? 新聞や書籍といった印刷物で多く使われるのは「明朝体」です。毛筆の楷書に似ています。

すべての線がほぼ同じ太さにデザインされた「ゴシック体」は、看板やポスターなどで活用されています。

現在、利用が広がっているのが、「ユニバーサルデザイン(UD)フォント」です。目が不自由な人や高齢者など配慮が必要な人でも読みやすいのが特徴です。似た文字が区別しやすいよう、線の太さや文字の幅を調節したり濁点を大きくしたりと工夫されています。

読みやすい「ユニバーサルデザイン」も

知ってご用語

フォント デジタル化した書体を指します。社会のデジタル化で、書体をパソコンやプリンターで利用するためにデータ化されました。画面に表示したり、紙面に印刷したりして利用します。

「毎日書体のアイデアばかり考えている」と中村さん。気が

現在、書体はフォントとして知られることがほとんどです。中村さんもパソコンを使って制作しますが、まずは思いをつくまま鉛筆をすべらせてアイデアを膨らませていくことは変わりません。



記事を読んで考えよう!

- 〈1〉あなたならどんな書体をデザインしたい?
- 〈2〉新聞や折り込み広告で見える書体を切り出して見比べてみよう

B5判ノートに横向きに貼れるよ



大正の風情残る「銀山温泉」

山形県尾花沢市の銀山温泉は、大正時代の面影を残す温泉街です。木造の旅館が並び、ガス灯が照らす町並みは風格があり、情緒豊かで落ち着いた雰囲気。映画「千と千尋の神隠し」の舞台になった湯屋の様子にそっくりと言われています。

